

北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (整理番号)	当院における小児短腸症候群の治療成績と静脈栄養離脱予測因子 (B26-068)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部一般・小児・肝胆膵外科学 講師 渡辺 栄一郎
他の研究機関 および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	短腸症候群とは、小腸の広い範囲を切除したことにより、栄養や水分を十分に吸収できなくなる病気です。原因としては腸閉鎖症、中腸軸捻転症、壊死性腸炎などがあり、小児では長期間にわたり点滴による栄養管理を必要とすることがあります。しかし、長期の中心静脈栄養は感染症や肝障害などの合併症を引き起こすことがあり、患者さんやご家族の生活の質にも大きな影響を与えます。短腸症候群の予後には残存小腸長や回盲弁・結腸の温存など様々な因子が関与するとされていますが、どの因子が長期予後や中心静脈栄養からの離脱に最も重要であるかについては十分に明らかになっていません。そこで本研究では、当院で治療を行った短腸症候群患者さんの診療記録を後方視的に解析し、中心静脈栄養からの離脱や成長発達、術後合併症に関連する因子を明らかにすることで、今後の治療成績向上および長期予後改善に役立てることを目的とします。
調査データ 該当期間	2009年1月1日から2030年12月31日までのまでの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	2009年1月1日から2025年12月31日までの期間に当院で短腸症候群と診断され、治療を受けた方
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2009年1月1日から2030年12月31日までのまでの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
利用又は提供を開始 する予定日	利用又は提供開始予定日：研究機関の長の許可日から
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究の遂行のための費用は、北里大学一般・小児・肝胆膵外科学医局研究費を使用します。 研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。

お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：一般・小児・肝胆膵外科学 講師 担 当 者：渡辺 栄一郎（ワタナベ エイチロウ） 電 話：042-778-8111
備 考	